

健康知恵袋

お薬手帳を活用しましょう

【お薬手帳とは?】

お薬手帳は、利用者本人のものであり、利用者の服用歴を記載し、経時的に管理することで、利用者自らの健康管理に役立てたり、医師・薬剤師が確認を行い、相互作用防止や副作用回避に資するものであるとされています。

【お薬手帳の意義および役割】

○利用者自身が、自分の服用している医薬品について把握するとともに正しく理解し、服用した時に気付いた副作用や薬の効果による体の変化や服用したかどうかを記録することで、医薬品に対する意識を高め、セルフメディケーション(※)・健康増進につながることで、医薬品のより安全で有効な薬物療法につながる。

※セルフメディケーションとは、世界保健機関(WHO)において「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と定義されています。

○複数の医療機関を受診する際および薬局にて調剤を受ける際、また、要指導医薬品・一般医薬品を購入する際に、利用者がそれぞれの医療機関の医師および薬局の薬剤師にお薬手帳を提示することにより、相互作用や重複投与を

防ぎ、医薬品のより安全で有効な薬物療法につなげる。

以上の2点について、厚生労働省「電子版お薬手帳ガイドライン」に示されています。

【お薬手帳の記載事項】

お薬手帳には、利用者自身の基本情報と普段利用する薬局名・薬剤師名を記載するようになっていきます。調剤する薬局では、処方箋に従い薬物療法の情報を時系列に貼付または記載します。

◆記載事項①

- 患者さんの氏名
- 性別
- 生年月日
- 住所
- 電話番号
- 血液型
- 主な既往歴
- 副作用歴(薬品名)
- アレルギー(薬、花粉症、食べ物など)

◆記載事項②

- 調剤日
- 処方箋発行機関
- 処方医師名
- 医薬品名(規格)
- 用法・用量
- 投与日数
- 調剤した薬局名、薬剤師名

【お薬手帳のメリット】

- ①薬剤師・病院間の連携がスムーズになる
- ②薬の重複やアレルギー反応の防止につながる
- ③患者さんご自身の負担金額が安くなる場合がある

医療機関や薬局ごとに別々のお薬手帳をお持ちの方は、1冊にまとめて使用されることをお勧めします。

また、近年ではスマートフォンアプリを利用した電子版お薬手帳があります。アプリの中に一括で管理ができる、手帳の紛失や持ち忘れを防止できる、情報の管理がしやすくなる、救急などの緊急事態にも安心できるなどのメリットがあります。

しかし、電子機器が苦手な方には利用しづらい、セキュリティの

確保や災害時の対応に課題がある、アプリによって機能や仕様が異なるなどのデメリットがあります。従来の紙版のお薬手帳と電子版お薬手帳のメリット・デメリットがあることを踏まえたうえで、使いやすさを第一に選んでいただけたらと思います。

【災害時のお薬手帳の必要性について】

令和6年能登半島地震による災害の被災地の患者に対する処方箋医薬品の取り扱いについて、薬剤服用歴、お薬手帳およびマイナンバーカードなどを活用し患者の服薬情報を確認し処方することが一時的に可能となった前例がありました。

これから起こるかもしれない大規模災害に備えて、非常持ち出し袋の中身にお薬手帳やお薬情報、現在の内服薬を備蓄しておくことをお勧めします。

○お問い合わせ

本庁健康福祉課保健衛生係

☎43-2836

佐賀支所地域住民課保健センター

☎55-7373